

# 震災復興事業における公共空間の変化について

神戸市立高専 都市工学科 フェロー 橋本 渉一  
 芦屋市役所 正会員 山本 剛史  
 神戸市立高専 都市工学専攻 学生会員 西本英一郎

## 1. はじめに

神戸市では戦後復興事業として土地区画整理事業を進め、都市機能を分担しながら都市の形成を図るために、昭和30年代後半から再開発事業を取り入れ市街地整備を進めてきた。

平成7年1月の阪神・淡路大震災により壊滅的被害を受けた地区においては再開発および土地区画整理事業進展への努力が重ねられ、震災後10年を迎えようやく地域整備が整いつつある。

木造建築物の倒壊あるいは火災・延焼による被害を大きく受けた、長田区、兵庫区、灘区を対象地区として、公共空間の変化とまちづくりを調査した。

## 2. 調査対象地区

長田区：御蔵通（区画整理）、二葉町・久保町・腕塚町（新長田第一；再開発）

兵庫区：松本通・上沢通（区画整理）

灘区：深田町・備後町・桜口町（六甲道南；再開発）、琵琶町（六甲道西；区画整理）

## 3. 土地区画整理事業の地区

図-1は阪神大震災時に発生した兵庫区内の火災の延焼状況を表している。火災の発生地は上沢通であったが延焼した大半は松本通であった。図-2に示すように上沢通では阪神大震災以前に、老朽化した住宅密集地の公共施設を整備して生活環境の改善を図るため、昭和52年3月に都市計画決定を行い、昭和54年2月に事業着手された。それにより既に最低4m以上の道路が設置され、公園も配置されていた。これらの公共空間が火災延焼を食い止めたと考えられる。

琵琶町では第2世界大戦では火災の被害を免れ古い町並みが残り、6m程度の地区内道路もあり公共空間割合が12%あったため、一部区域で延焼も発生したが、主として倒壊の被害が多かった。

図-3に兵庫区内の公共空間の割合と不燃構造物割合の関係を示す。現在では不燃構造物割合の小さい地区では公共空間が大きく確保されており、安全性は高くなっていると考えられる。



図-1 阪神大震災による松本通の延焼状況

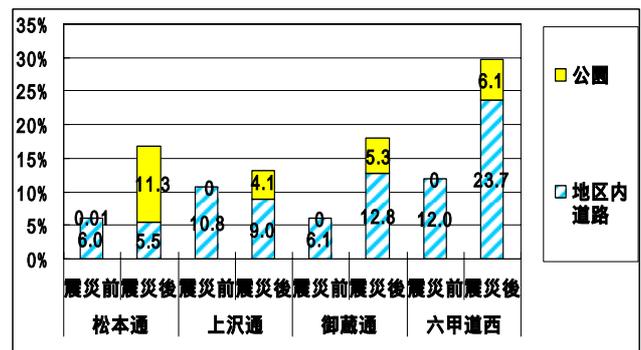
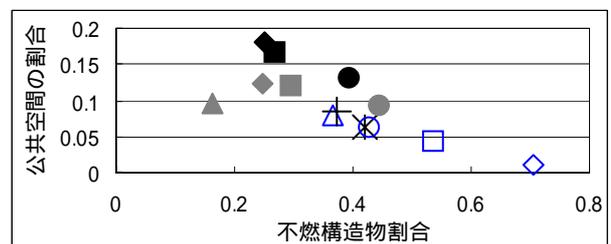


図-2 公共空間の割合(外周道路を含まない)



松本通 上沢通 下沢通 中道通 \*水木通  
 大開通 + 塚本通 羽坂通 駅前通 浜崎通  
 須佐野通 松原通 御蔵通

図-3 公共空間の割合と不燃構造物割合の関係

キーワード：震災復興，土地区画整理，市街地再開発，公共空間，土地利用  
 連絡先：〒651-2194 神戸市西区学園東町 8-3 TEL&FAX 078-795-3268

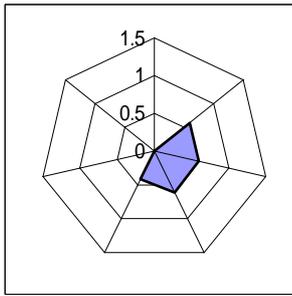


図 4-1 震災前の御蔵通

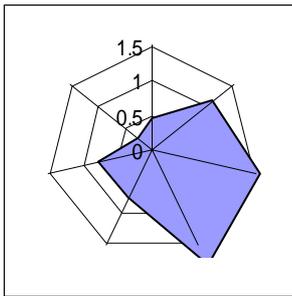


図 4-2 震災後の御蔵通

図 4-1, 4-2 のチャートの各項目は一番上から右周りに、「公園の面積 (ha)」「区内道路の面積 (ha)」「公共空間の面積 (ha)」「公共空間の割合 / 10(%)」「外周長さ」と面積の比 \* 10(1/m)」「延焼防止施設 / 10(ヶ所)」「不燃構造物割合 (%)」を表している。

防災のまちづくりが行われた結果、震災前後の土地利用変化に注目すると、公園・道路の公共空間が飛躍的に大きくなり、不燃構造物も多く建築されている。

#### 4. 市街地再開発事業の地区

市街地再開発事業が行われた、新長田第一、六甲道南地区ともに、震災前には4m未満の細街路のある住居と店舗の混在する地区であったが、住居・店舗が再開発ビルに集約され、道路も殆どが広幅員道路に集約された結果、図-5、-6 に示すように道路延長は短くなっているものの、道路面積の地区面積に対する割合はほぼ同程度であり、小公園等を合計した公共空間割合をみると、新長田第一地区では学校が撤去されたことにより減少し、六甲道南地区では大規模な防災公園が地区の中央に建設された結果、大きく増加している。

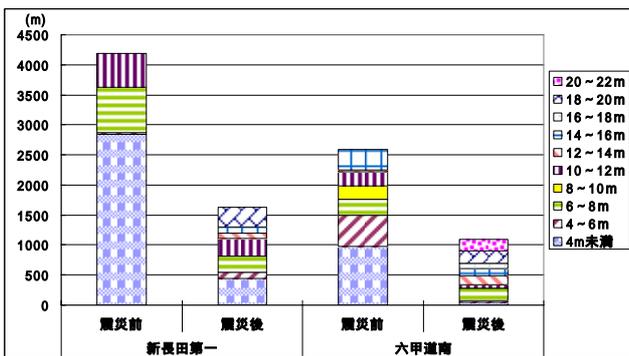


図 - 5 幅員別の道路割合

図-7 に示すように、地区の周囲の広幅員外周道路を含まない、地区内の公共空間面積の変化を見ると、新長田第一地区では、地区内ブロック単位に建築面積の大きい建物に集約されたことから、地区内道路は減少し、六甲道南地区では地区内ブロックに、

中規模の再開発ビルが複数建築されていることから地区内道路としてやや広い道路も計上され、地区内道路面積は増加している。

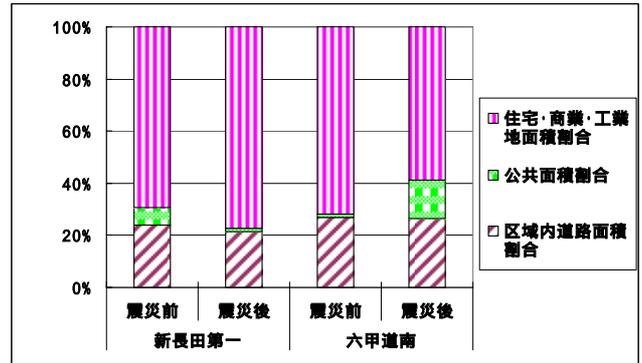


図 - 6 公共空間の割合

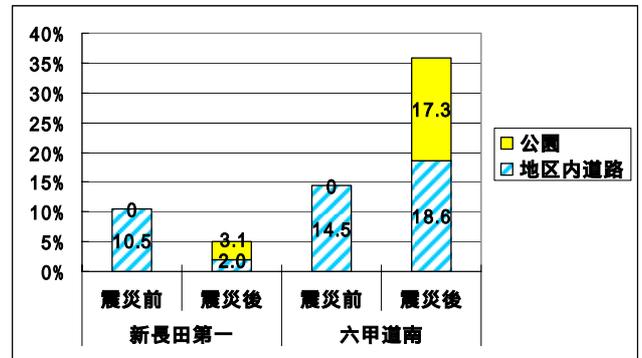


図 - 7 公共空間の割合(外周道路を含まない)

#### 5. まとめ

震災被害を大きく受けた地区の、復興事業として行われた土地区画整理、および市街地再開発の事業前後の土地利用状況の比較検討を行った結果をまとめると以下のとおりである。

土地区画整理事業（御蔵通・松本通・上沢通・琵琶町）では、密集住宅地区、戦災を免れていた地区において火災後の2次災害として延焼被害を受けたが、土地区画整理の実施済の地区、既に公共空間の確保されていた地区では延焼被害の少なかったことが認められた。

市街地再開発事業（新長田第一地区・六甲道南地区）では、建築面積の大きい再開発ビルに集約され、地区内道路は姿を消し、道路面積は変わらず同程度であるが、道路延長は減少し広幅員道路に集約された。

#### 参考文献

- (1) ゼンソウ住宅地図 神戸市灘区・兵庫区・長田区 / 株式会社 ゼンソウ / 平成6年, 17年
- (2) 神戸市消防局 / 神戸市における地震火災の研究 / 財団法人 神戸市防災安全公社 / 平成8年11月